

「地質情報展2011みと」の概要と 地質情報展の過去3年間の来場者

田辺 晋¹⁾

1. 地質情報展とは

地質情報展とは、産総研の地質調査総合センターが主体となって、日本地質学会学術大会と合わせて、毎年各地域で開催しているイベントです。このイベントは、1997年より開始し、これまで福岡、松本、名古屋、松江、金沢、新潟、静岡、千葉、京都、高知、札幌、秋田、岡山、富山において開催されてきました。そして2011年は、地質調査総合センターと日本地質学会、茨城大学の主催によって、水戸市堀原運動公園武道館を会場にして、9月10日（土）と11日（日）の日程で開催されました（第1図）。このイベントの特徴は、一般の方々に馴染みの薄い「地質学」を普及するために、地質調査総合センターや日本地質学会の行っている研究内容を分かりやすく展示・解説している点、そして子供向けに体験学習コーナーを設け、様々な実

験や実演を行っている点にあります。毎年、小学校入学前のお子様からお年寄りまで様々な方にご来場頂き、皆さんに楽しみながら「地質学」に接してもらっています。

2. 地質情報展 2011 みと

「地質情報展 2011 みと」では、次のような展示と解説のコーナーや体験コーナーを設けました。

【展示と解説のコーナー】「茨城の地史」、「東北沖の広域精密地形」、「茨城の地震環境」、「茨城の鉱物資源」、「茨城の花こう岩」、「東北地方太平洋沖地震」、「シームレス地質図」、「重力で見る茨城県」、「日本の地熱資源」、「地下にすむ微生物」、「くらしと地下水」、「地震と火山に関する緊急調査展示」。

【体験コーナー】「キッチン火山実験」、「顕微鏡で石を



第1図 「地質情報展2011みと」の会場の様子。

1) 産総研 地質標本館

キーワード：地質調査総合センター、地質標本館、日本地質学会、地質情報展、とやま、おかやま、みと

観察してみよう!」,「パソコンで地学クイズにチャレンジ!」,「ペットボトルで地盤の液化化を再現しよう!」,「マンガン団塊を採ろう!」,「Geotoy で遊ぼう!」,「ポップアップカードを作ろう!」,「自分だけの化石レプリカをつくろう!」.

【その他】「ジオパーク」,「地質標本館がやってきた」.

【地質学会のコーナー】「震災関係のポスター展示」,「市民向けポスター展示」,「ジオ写真展」,「地学オリンピックの紹介」.

【茨城大学のコーナー】「震災被害調査」,「大学の地域貢献」,「県北ジオパーク」.

展示と解説のコーナーでは、「茨城の地史」をはじめとして茨城の地質と関係のあるポスターを用意しました. ここでは日本地質学会学術大会が開催される地域と関係のある地質について毎年出展しています. 地質調査総合センターでは日本全国の地質図幅を整備しています. 従って,どこの地域で学術大会が開催されても,そこの地域の地質に詳しいスタッフがいるため,このような出展が可能です. また体験コーナーでは,エタノールで溶かした小麦粉を溶岩流とみたとて火山を成長させたり,地質現象の再現を試

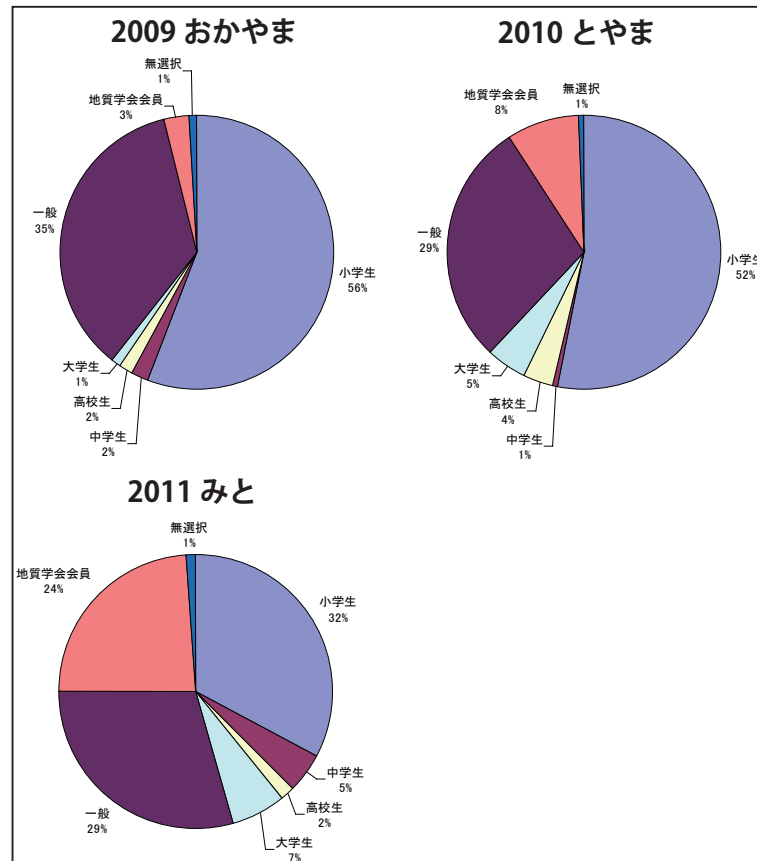
みた様々な実験や実演を行いました. ここでは地質調査総合センターのなかでもアウトリーチに興味のあるスタッフが日々工夫をこらした出展を行っています. これらの出展内容のうち,「茨城の地史」,「茨城の花こう岩」,「キッチン火山実験」,「パソコンで地学クイズにチャレンジ!」,「Geotoy で遊ぼう!」,「自分だけの化石レプリカをつくろう!」については,本特集号の口絵と本編で,各出展の担当者より,詳しい内容が紹介されていますのでご参照下さい.

3. 地質情報展の来場者

地質情報展には毎年 1000 人近くの方々にご来場頂いています(第1表). なかでも 1999 年の「中部地質情報展」と 2009 年の「地質情報展おかやま」では,2000 名を超えるの方々にご来場頂きました. このような地質情報展の来場者数は年によってばらつきがありますが,それは会場の立地と関係があります. 主に駅前の人通りのある場所で開催した年はたくさんの方々にご来場頂いているようです. 「地質情報展 2011 ひと」は,日本地質学会学術大会の開

第1表 過去の地質情報展の来場者数.

回数	開催年	タイトル	開催日	期間	開催場所	来場者数
第1回	1997	九州地質情報展「知っていますかあなたの大地—地質学が探る九州島—」	10月10日	1日	福岡市立少年科学文化会館	500強
第2回	1998	甲信越地方地質情報展「ザ・フォッサマグナ」	9月26~27日	2日	信州大学共通教育センター	1162
第3回	1999	中部地質情報展「20億年のタイムトラベル」	10月9~11日	3日	名古屋科学館	2500
第4回	2000	山陰地質情報展「地質が明かすくろびきの里」	9月29日~10月1日	3日	松江テルサ	1341
第5回	2001	北陸地質情報展「ぼくらをのせた大陸のかけら」	9月21~23日	3日	金沢市MROホール	951
第6回	2002	地質情報展「にいがた—のぞいてみよう大地の不思議—」	9月14~16日	3日	新潟市民芸術文化会館	913
第7回	2003	地質情報展「しずおか—プレートの出会う場所で—」	9月19日~21日	3日	静岡市グランシップ	1415
第8回	2004	地質情報展「ちば—海から生まれた大地」	9月18日~20日	3日	千葉県立中央博物館	1637
第9回	2005	地質情報展「きょうと—大地が語る5億年の時間—」	9月18日~20日	3日	京都大学吉田南1号館	1270
第10回	2006	地質情報展「こうち—黒潮よせるふるさとの地質—」	9月15日~17日	3日	高知市文化プラザ	908
第11回	2007	地質情報展「北海道—探検!熱くゆたかなぼくらの大地—」	9月7日~9日	3日	北海道大学クラーク会館	1200
第12回	2008	地質情報展2008あきた—発見・体験!地球からのおくりもの—」	9月19日~21日	3日	秋田市民交流プラザ	1910
第13回	2009	地質情報展2009おかやま—発見 瀬戸の大地—」	9月4日~6日 (4日は団体のみ)	2日	岡山市デジタルミュージアム	2036
第14回	2010	地質情報展2010とやま—海・山ありて富める大地—」	9月17日~19日 (17日は団体のみ)	2日	富山市民プラザ	856
第15回	2011	地質情報展2011ひと—未来に活かそう大地の鳴動—」	9月9~11日 (9日は団体のみ)	2日	水戸市堀原運動公園武道館	926



第2図 過去3年間の地質情報展の来場者内訳

催された茨城大学からは近い場所にありましたが、水戸駅からは離れており、その分、集客数（926人）にも限りがあったようです。

地質情報展の来場者にはアンケートを実施しており、2009、2010、2011年の地質情報展については来場者の内訳を記録しています（第2図）。この内訳を見ると、毎年、小学生の来場者が最も多く、次いで一般の方々に来て頂いています。一般の方々については小学生の保護者も多くいると思われます。また2011年については、会場が大学の近くであったことから、たくさんの日本地質学会の会員や大学生の方々にも来て頂きました。その一方で、中学生や高校生の方々には毎年あまり来て頂いていないようです。地質情報展の事務局では、毎年近隣の小中学校と県内の高校に地質情報展の案内やポスターを送付しています。その効果は小学校に関してはありますが、中学校や高校に関してはあまりないのかもしれません。

4. おわりに

地質情報展は1997年から開始して、2011年で15回目を迎えました。そして2012年は日本地質学会第119

年学術大会（会場：大阪府立大学）と合わせて、大阪市立自然史博物館で「地質情報展2012おおさか」を開催する予定です。2012年の地質情報展に関しては、博物館で開催することから多くの方々にご来場頂けると思います。

そもそも地質情報展は日本地質学会の学術大会に参加するスタッフが多くいることから、学会と開催期間を合わせるようになったそうです。しかし、地質情報展に参加すると、会場のスタッフが少ないことから負担が大きく、本来の目的である学会に参加する余裕がないという意見も多くあります。今後の運営に関しては、小学生向けの体験コーナーをメインにするのか、もしそうであったら学会期間と合わせる必要はなく夏休みの開催が良いのではないかと、地質情報展の運営方針を、予算を勘案しながら検討すべき時期にきていると思います。

TANABE Susumu (2012) Outline of Geoscience Exhibition in Mito 2011 and visitors of the Geoscience Exhibitions during the past three years.

（受付：2012年3月8日）